

題名	第3回旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場活用検討委員会 議事録概要		
日時	平成28年12月27日(火)	場所	仮設庁舎3階 会議室301

発言者	発言内容
事務局	(1) 活用検討委員会の役割について 《資料1に基づき、説明》
事務局	(2) 活用の基本的な考え方について ①重視する方針について ②目指す姿について ③対象(利用者)について ④部屋(エリア)について 《資料2、資料3、資料4(1)、資料4(2)に基づき、説明》
	(※) 本会議録における「1」～「4」は、基本計画(平成26年度策定)で定めた4つの整備の方針をいう。 「1」…熊谷飛行学校桶川分教場の歴史的な価値の保存継承を図る 「2」…平和を考える場として活用を図る 「3」…広域的な観光ルートを視野に入れたテーマ性の高い立寄り観光拠点とする 「4」…地域で利活用ができる施設とする
委員長	「委員会の役割」と「本日の第3回で話し合う内容」について事務局より説明がありました。
委員	資料2の「①重視する方針」というのは、整備の方針「1」～「4」の中から1つだけ選択するということでしょうか。残りの方針については考えないということではなく、選択した方針のサブということでしょうか。
事務局	1つを選択したからといって残り3つを考えないということではありません。それを主軸として検討を進めていただきたいと思います。
委員	資料3の「考えられる活用・展開方法」で紹介している「道の駅第九の里(徳島県鳴門市)」は、もともと何か他の施設があったものを道の駅として活用しているのですか。
事務局	この建物は、第一次世界大戦の時に俘虜収容施設の関連施設として使われていたものを移築して、道の駅の施設として利用しています。

委員長	資料2の「①重視する方針」からご意見をいただきたいと思います。4つの整備方針の中から重視すべき方針を1つ選んでいただきたいと思います。
委員	1つだけ選択するのは難しいです。「1」が一番重要だとは思いますが、他の方針もそれぞれ重要なものではないでしょうか。
委員長	当該建物は、今年2月に文化財指定され、解体調査も行われ、既に保存継承の作業は実施されています。従って、「2」～「4」の方針の中で、どれを基本的な考え方として活用を考えていくのかを検討していただければと思います。
委員	<p>今の段階ではコアとなるものが無いと思います。熊谷飛行学校の跡地を復原して、見学に訪れた人に戦時中は大変だったということをなげかける場所にするのか。道の駅やサイクリングロードの休憩地という位置付けだと、単に資料館があって遊び場というものになってしまうと思います。</p> <p>資料3の中の、桶川分教場の跡地を単なる遊び場という考え方は、私は考えられません。現在の平和の有難さを理解してもらえることを目的としたものがコアなのか、観光を目的としたものがコアなのか、そういう筋立てが必要だと思います。</p>
事務局	桶川分教場は、既に市の有形文化財に指定され、解体調査を実施し、今後復原をする予定です。この建物を復原した後、活用にあたり、何を主軸にしていくのかということをお話ししたいと思います。仮に「3」の観光立ち寄り拠点を主軸とする場合、資料3で示しているような利用が考えられます。また、「4」の地域で利活用できる施設を選択した場合は、地域コミュニティに資するということから、公民館のような利用が考えられます。桶川分教場を復原した後、こういった活用をしていくかということをお話ししたいと思います。
委員	「2」と「3」を中心に進めていけばよいと思います。地域で利活用できる施設も良いとは思いますが、比重がそちらへいってしまうと、貴重な歴史的遺構が単なる歴史資料館があるというだけになってしまい、目的がずれてしまう恐れがあります。
委員	建物は解体調査の後に復原するというのですが、敷地内に他の建物、例えば売店等を建てることはできるのでしょうか。トイレはどうなりますか。

事務局	桶川分教場の敷地内に新たに売店やトイレ等を建てたりすることは、現在のところ想定していません。
委員	公園の考え方についてはどうですか。
事務局	敷地内にベンチを置いたり、サイクリングロードの利用者の散策や休憩場所としての利用は可能だと考えています。
委員	林があるので桶川分教場から荒川までは見えないですが、景観についてはどうなるのでしょうか。
事務局	林については、緑地や保存樹林を所管する課の考えもあると思います。この委員会では、桶川分教場の敷地の中の活用についてご検討いただければと思います。
委員	近くに総合運動場のトイレがありますが、そこへ行くにはどの道を使うのでしょうか。
事務局	通常、見学者の方は敷地南側の道を上がって来ています。
委員	活用にあたり、こういったものが必要なのではないかということや委員会では意見を出し、事務局の方でまとめるものかと思っています。今の段階は、文化財で保護された建物を修繕しようという段階で、その次の段階が決まっていないので、この委員会でみんなで意見を出していけば、よりよい活用方法になっていくと思います。
委員	学校で訪れる場合、バスで桶川分教場に来ることになるので、駐車場の問題がありますが、平和を考える場として活用することを考えると、小学生等の子どもたちに来てもらいたいと思います。平成27年には桶川高校の生徒が見学に来ましたがあったのか知らない子どもが多く、今の自分たちがとても恵まれていることを認識したようです。子どもたちには、戦時中にどのようなことがあったのかを教えるということや考えるようにしているので、方針の「2」と「3」が大変重要なのではないかと思います。
委員	少なくとも地元の子どもたちには桶川分教場を訪れてもらい、自分たちが暮らしているところでこのような事実があったということを知り、平和の尊さを学べるようになることが良いと思います。学校関係者に加えて、一般の方々にも広く訪れてもらえるように、目的観光についても考えるという点では「3」もよいのではないかと思います。

委員	<p>委員長がおっしゃっていたように、保存継承を大前提として、文化財という点で皆さんに知っていただくために、立ち寄っていただくということが第一にあります。観光振興は、資料の中にもあるように「楽しむことができる」という点については、大変難しいことだとは思いますが、勉強ができて楽しかったな、というように理解を変えて楽しむことができるということでまとめていけば、複合的に考えていけるのではないのでしょうか。平和を考える場としての観光振興、もしくは飛行学校を勉強する場としての観光振興という考え方はどうでしょうか。組み合わせていきながら、目的を決めていければよいと思います。</p>
委員	<p>今日の検討内容は大変重要だと思います。桶川市は桶川分教場で何をやりたいのかわからないという話を聞きます。桶川市として、何を目的に保存プラスアルファを考えているのかが、地域住民も分かっていないと感じます。整備の方針が4つ挙がっていますが、「1」については、既に始まっています。「2」「3」「4」については、本当にこれだけなのか、目指す方向が他にもあるのではないかと感じてしまいます。目的をしっかりと決めておかないと、先行き方向性がはっきりしていけないのではないかと思います。</p>
委員	<p>地元の方は、単に解体して復原するだけと思っていると思います。地元の人たちが疑問に思うのは当然だと思いますし、PRが足りないと思います。今日の会議は重要なことを決めているので、しっかり時間をかけて検討した方がよいと思います。</p>
委員	<p>地元の人へは、きちんと説明ができることにすることが大事だと思います。</p>
委員長	<p>市民の方々に、このような目的で保存をするということを説明することが大事だと思います。今後どのように説明をしていくのかを決めたいというのが、資料2①重視する方針なのだと思います。今のところ、皆さんのご意見をうかがっていると、「2」か「3」に集約されていると思います。皆さんいかがでしょうか。</p>
委員	<p>もし多目的ホールを設けることが可能であれば、地域の方も利用ができるので、「4」もよいのではないかと有り得ると思います。</p>
委員長	<p>多目的ホールの実現性というのはいかがでしょうか。</p>

事務局	<p>先ほども申し上げましたが、敷地内に新たに新築の建物を造るということは、現在想定しておりません。文化財の建物なので、文化財保護としての意味をもちながらどのように活用するかということが前提になります。</p>
委員	<p>「1」について考えるということは、平和を考えるということにつながります。最終的には「2」を念頭に考えるとよいのではないのでしょうか。私は「平和」がまずは主軸となるのではないかと思います。</p>
委員	<p>この4つの方針の中で「2」の方針は格が違うと思います。市民の気持ちで考えると、整備にあたってお金がかかるので、市民へどのように還元されるのかということに関心があると思います。市民が有効に使えるようにということを共有課題としていかないと理解が得られないのではないかと思います。</p>
委員長	<p>例えば、「2」の方針を選択したので、「3」の観光や「4」の地域で利活用という考え方が忘れ去られるということではなく、あくまで資料3に即して話しますと、徳島県の道の駅のような取り組みでは、本来の保存の主旨とずれてしまうのかと思います。皆様のご意見をうかがった中では、やはり「平和を考える」ということを主軸として、併せて多くの方々に来ていただいて、地域の発展につなげていくような方向性がふさわしいと思います。</p>
委員	<p>今まであった建物を復原しただけでは意味がないと思います。歴史的な遺構であって、子どもたちが自分の祖父母が戦時中に大変な思いをしたということが勉強できる場としないといけないと思います。整備の方針「2」と「3」は重点的に行い、地域の人たちも利用できるような部屋を設けてはどうでしょうか。</p>
委員長	<p>資料3で例示している、平和資料館のような子どもたちに平和の大事さについて考えるというような方向を目指すのか、あるいは、道の駅のような物を販売する場所として目指していくのか、どちらかを選んだからといって片方が外れるということではなく、方針「2」と「3」ということであれば、どちらをメインにして主軸を置くのかということになるかと思います。</p>
委員	<p>管理棟は建てるのですか。</p>

事務局	<p>新たな建物を建てることは、現在のところ想定していません。守衛棟や兵舎棟も大きいので1部屋を管理室にすることも考えられると思います。</p> <p>第1回委員会で、何を目的に進めていくのかということが市としてはっきりしていないというご意見がありました。復原後の活用方法について、本委員会を通してどれを主軸にして考えていけば良いのかを検討していただいております。</p>
委員長	<p>地域の方々へ説明をするためにも、方向性を決めておく必要があるかと思えます。そういう意味で方針の「2」と「3」を上手く併用していく方法を今後検討していくことになるかと思えます。</p>
委員	<p>「2」だけにしてしまうと幅が狭くなってしまおうと思うので、文言を少し付け足すとよいと思えます。「平和観光」など「3」を合わせた形だと皆さんが思っている姿に近づくのではないのでしょうか。</p>
委員長	<p>文言についてもう少し検討することは、スケジュール上、可能でしょうか。</p>
事務局	<p>これは重要なところなので、時間をとって対応したいと思えます。</p>
委員	<p>次回委員会では、建物や部屋の活用を議論することになっています。「1」が前提になっているということも考慮して重視する方針を検討していただきたいです。活用方法の中で、文化財の法律や建築基準法等があり、色々な法律をクリアしながら進めていかなければなりません。それを委員会で検討することは難しいので、事務局へお任せし、本委員会では建物の活用として基準を見出すために、メインとなる目指す姿を決めたいのだと思えます。</p>
委員長	<p>先程の話のように、次回具体的な建物の活用の方針を考えることになるので、どのような方向性を盛り込んでいくのかが非常に大事になってきます。観光を重視し、道の駅のようになっていくというのは本来の趣旨からずれてしまうかと思えます。基本は平和を考える場で、「1」は大前提としてあります。「2」を基本方針として考えて、文言の検討の中で「3」の要素を取り入れるというような方向性があるのかと思えます。いかがでしょうか。</p>

委 員	<p>桶川分教場の特徴は零戦ではなく「赤とんぼ」という練習機を使用していたことです。実践配備前の練習訓練場だったということが特徴です。委員長は色々な資料館をご覧になっているかと思いますが、桶川分教場についてどのような感想をお持ちですか。</p>
委員長	<p>どこの資料館も入館者の数で苦勞をしていると思います。多くの資料館で平和学習に力を入れて、地元あるいは近隣の学校の生徒が毎年たくさん来るようにしていると思います。桶川分教場についても、同じような方向性が望ましいのではないかと思います。色々な方に来てもらうことも大事なことだとは思いますが、末永く残していくとなると平和学習の場として方向性を作っていくことが望ましく、多くの地域でやっておられるのではないかと思います。</p>
委 員	<p>以前、地元で施設そのものは戦争を推進していたもので子どもたちを連れて行ってよいものなのかという話をしたことがあります。そのような考え方もあるのかと思いました。平和を目的とする施設にするとしても、そうではない認識を与えてしまうこともあるという話も地元でありました。</p>
委員長	<p>善悪の問題になりやすいテーマではあります。また、認識の話ということになると思いますが、何故このようにして戦争が起こってしまうのかという経緯について、資料を使って子どもたちに分かるように説明をする展示が望ましいのではないかと思います。</p> <p>これまでの話をまとめますと、「1」は大前提ととらえ、「2」を主軸とし、文言の検討の中で「3」の要素を組み込むということでしょうか。</p> <p>《異論なし》</p>
委員長	<p>続きまして、「②目指す姿」について話し合いたいと思います。目指す姿の内容については、本日皆さんから意見をいただき、次回の委員会までに事務局でたたき台を作成してもらいたいと思います。現時点では取り入れるキーワードやニュアンスでも結構ですので、ご意見をお願いします。</p>
委 員	<p>「陸軍飛行学校桶川分教場」なので、陸軍飛行学校時代の使われ方を皆さんに知っていただくことが、目指す姿だと思います。また、飛行学校という名前が付いているので、「飛行」ということを平和的に活用し、勉強の場としての活用をサブでつけておけば良いのではないのでしょうか。建物や文化財というものも知っていただく機会になると思います。</p>

委員	私も「飛行」という言葉はキーワードになると思います。少年たちは、空を飛ぶ憧れや夢を持っていたと思います。戦時中の飛行機だけにこだわらず、未来まで考えていければ良いのではないのでしょうか。
委員	日本を守るために自分で志願していった若者達の思いが、今の子どもたちへ伝われば良いと思います。
委員長	<p>今日、私たちは飛行機というものを活用して平和な暮らしをしています。「飛行と戦争」というのは、非常に重要なつながりがあり、逆に「飛行と平和」にも重要なつながりがあるということで、このあたりを子どもたちに分かってもらうことが、「目指す姿」としてふさわしいのではないかと思います。</p> <p>また、子どもたちがメインターゲットになっていくと思うので、現代の子どもたちが過去の子どもたちを鏡として、自分の現在、将来を考えていくというのは非常に良いことだと思います。</p>
委員	「平和を考える」のではなく「平和を発信」とすれば未来につながると思います。過去を知り、現在を知り、そして未来をとという意味が良いのではないのでしょうか。
委員	発信ということでは、少年のことだけではなく、当時の世の中全体でなぜ戦争が起きたのかという裏側のことを学ぶことがとても重要だと思います。肌で感じられるような平和の発信が必要ではないのでしょうか。文化財として残していくという意味合いの発信も重要で、それを活用することも重要です。景観も含めて残していくことが大切だと思います。
委員	文化財としての建物ということで、小屋組のトラス構造などの建築技術も勉強してもらえればと思います。
委員	固定の常設展示にとらわれずに、動かせたり変えたりできるものが良いのではないのでしょうか。新しいものがどんどん入ってくる時代になるので、動かせることでより魅力を発信できると思います。
委員長	<p>展示は、ある程度少しずつ替えていけるということが望ましいかと思います。</p> <p>これまでの皆さんの意見をまとめると、「飛行と平和」、「平和の発信」がキーワードとして挙げられており、目指す方向性としては、当時の子どもたちが夢や憧れを持って飛行機に乗ろうとしたという事実もあったことも含め展示を考え</p>

	ていく。未来志向が大事になってくると思いますが、現在の子どもたちが過去の子どもたちを通じて、自分の未来を考えていく。その中でなぜ戦争が起きたのかについて考えていく。建築史上、熊谷陸軍飛行学校の中で、桶川分教場がどのような位置付けにあるのかを考える場所にする。これらをもとに次回委員会までに事務局に素案を作成してもらいます。
委員長	続いて、「③対象（利用者）」について意見や提案を出していただきたいと思いますが、これについても、この場で意見をいただき、次回までに事務局にたたき台を作ってもらいます。年齢層やお住まいの地域、興味のある分野などが考えられますが、ご意見はありますか。
委員	先ほども言いましたが、小学校の高学年から中学校、高等学校、そして戦争の時代に生まれた人も含めて、これから高齢者が多くなるので、そういう方々を対象とした場所であってほしいと思います。
委員	本日、これまで各委員の方が言われているように、子どもたちの勉強の場として活用してもらいたいと思います。また、会社関係の新人研修の場として活用する等、そういう状況に置かれた人たちの気持ちを伝える・教えることも必要だと思います。
委員長	まとめますと、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒や、高齢者も含めた大人、会社等の新人研修であったり、いずれにしても何らかの学習の場として考えていくこととする。委員からの意見をもとに、資料作成を事務局で進めてもらいたいと思います。
委員長	続いて、施設内に想定される「④部屋（やエリア）」について話し合いたいと思います。あったらよいと思う部屋の名前やエリア、そのイメージについて意見を挙げてください。
委員	学校だと、1クラス30～40人くらいの教室になりますが、この施設の概要を説明する部屋があると良いと思います。映像を流すなどしてわかりやすく。その後に展示を見ると、より理解が深まります。スペースの制約があると思いますが、是非検討してほしいです。
委員	ここで何を学ぶかだと思います。桶川飛行学校の資料が残っているのでピックアップして、展示するスペースがあるとよいです。遊びとして体験できるような仕掛けもよいと思います。

事務局	資料の展示については、平和を軸にするのであれば、数ある飛行学校の資料の中から、次の子どもたちに伝えるものとして適切な資料を展示するスペースを設けることは可能です。
委員	一般的にこのような施設がある場合、最低限必要なものは必ずあると思うので、それを含めたプラスアルファを考えておく必要があるかと思えます。先ほど話のあった売店等についても要望があれば、また休憩のエリアも出てくるのでしょうか。先日視察で訪れた「競進社模範蚕室」のように来場者が増えてから、東屋やトイレをつくっていくという話もあったと思うので、来る人数によって大きさや区分けが考えられるのではないのでしょうか。
委員	学校などの団体が訪れた場合、一度に建物の中に入りきれないので、待機スペースが必要だと思います。天気の良い日だけではなく雨の日もあるので、それを考慮してほしいです。また、桶川分教場は文化財なので、価値や意義のある部分を強調して見せることも大切だと思います。
委員	尺貫法とメートル法の混合の建物であることが見えるとよいのではないのでしょうか。
委員	今の状態をそのまま復原するのであれば、照明を当てることでトラス構造が見えると思います。
委員	文化財の価値として飛行学校があったという歴史も重要であるが、文化財として残したということをきちんと発信していかなくてはならないと思います。
委員長	委員よりいただいた意見をもとに、次回資料で事務局でゾーニングのたたき台を提示してもらいたいと思います。それをもとに再度話し合いをしたいと思います。 本日の内容は以上になります。事務局へお返しします。
事務局	ありがとうございました。今回いただきましたご意見をまとめて、たたき台としての案を第4回委員会の資料として作成したいと思います。